

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4691200218
法人名	株式会社 ケアサポート霧島
事業所名	グループホーム きりっま
訪問調査日	平成21年6月4日
評価確定日	平成21年6月29日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4691200218
法人名	株式会社 ケアサポート霧島
事業所名	グループホーム きりっま
所在地	霧島市霧島大窪63番2 (電話) 0995-64-8095
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成21年6月4日

## 【情報提供票より】(平成21年5月15日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 20年 6月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 6人, 非常勤 10人, 常勤換算 10人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要(5月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低 71 歳	最高 99 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	徳永医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな自然環境の中、山菜とりや野菜づくりをはじめ、地元の方々が訪れて一緒に蕎麦打ちやお手玉づくりを楽しむなど、地域との交流を深めながら暮らしている。夜間は当番制で自宅待機の職員がおり、敷地内にも職員が居住しているため、緊急時に対する備えは手厚いものとなっている。管理者は、職員の資格取得を促すために、研修機会の確保や勤務調整を行っており、職員とともにサービスの質向上に熱意をもって取り組んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員に評価票を配り、各ユニットごとに意見を集約しながら自己評価を行っている。理解できない項目などについては、管理者と職員がともに話し合い理解を深めている。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>運営推進会議では、外部評価や実地指導の結果報告、行事や避難訓練の報告に加え、ご家族からの提案を受けて検討を行うなど、サービスの向上に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>意見箱の設置を行ったり、面会時に意見を出しやすいように声かけを行っている。また、運営推進会議等でも具体的な要望を出してもらえるように働きかけており、ご家族の要望で周囲のフェンスに花を飾ったり水銀灯を設置するなど、運営に反映している。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>地域行事への参加などはまだ実現していないが、保育園児やボランティアの皆さん、老人クラブや生涯学習クラブの方々など、多くの方々がホームを訪れ、踊りやお手玉づくり、蕎麦打ちなどを一緒に楽しんでいる。</p>

## 2. 評価結果詳細

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人一人の個性を活かしたゆとりある生活と家族の絆を大切にします」、「地域の中で交流の場としての環境を作り安心して癒しのある生活を大切にします」という理念を、開設当初より掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼や職員会議の際、理念を唱和し共有している。管理者および職員は、理念に謳われている内容を常に意識しながら、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事への参加などはまだ実現していないが、保育園児やボランティアの皆さん、老人クラブや生涯学習クラブの方々など、多くの方々がホームを訪れ、踊りやお手玉づくり、蕎麦打ちなどを一緒に楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に評価票を配り、各ユニットごとに意見を集約しながら自己評価を行っている。理解できない項目などについては、管理者と職員がともに話し合い理解を深めている。今回が初めての自己評価であり、外部評価結果も踏まえて、実施できていない項目について全員で話し合い改善に向けた取り組みを計画している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価や実地指導の結果報告、行事や避難訓練の報告に加え、ご家族からの提案を受けて検討を行うなど、サービスの向上に向けて取り組んでいる。		

6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも、必要に応じて行政担当者を訪ねたり、電話連絡を行って相談している。また、民生委員を対象にしたホームの見学会を実施した際に、市の担当者および地域包括支援センター職員も参加するなど、ともに連携してサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の健康状態や暮らしぶりについては、面会時や電話でお話しているほか、入居者毎に写真やコメントを添えた「きりっまたより」を月1回発行している。金銭管理については、毎月、使用した金額明細を請求書と同封してご家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置を行ったり、面会時に意見を出しやすいように声かけを行っている。また、運営推進会議等でも具体的な要望を出してもらえるように働きかけており、ご家族の要望で周囲のフェンスに花を飾ったり水銀灯を設置するなど、運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職する際には、引継ぎ期間を1ヶ月程度設けるようにしている。また、職員の離職によりやむを得ずユニット間で異動の必要性も有り得るので、日頃から行事やケアの中で各ユニットの入居者や職員の交流を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議に合わせて、研修や外部研修受講者の報告会などを定期的実施している。また、職員の希望を考慮しながら外部研修への参加を促したり、働きながら各種の資格が取得できるように勤務調整を行なうなど、人材の育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	始良・伊佐地区のグループホーム連絡協議会に加入しており、管理者は同業者と情報交換を行っている。また、他ホームとの職員交流や見学会も計画されている。		

## Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

### 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状況に合わせて、管理者や職員が自宅や入所施設に向いたり、可能な場合は見学してもらって説明を受けたりしながら、納得の上で利用を開始し、徐々に馴染めるように配慮している。		
----	----	--	--	--	--

### 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑や畝の作り方、生け花や料理等、それぞれの入居者から教わり、お互いに支えあう関係を築いている。		
----	----	---	---	--	--

## Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

### 1. 一人ひとりの把握

14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴等のご家族から伺い、介護に関する事項は入居前の事業所関係者から情報収集している。入居後は、徐々に本人の態度や会話の中から思いや意向を把握している。		
----	----	--	--	--	--

### 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人およびご家族、医療関係者や入居前に利用していた事業所などから情報収集を行い、担当者を中心にそれぞれの職員から意見を出してもらいながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	目標に応じて設定された期間に合わせて定期的な見直しを行うとともに、状態に変化が見られた際には随時見直しを行い、職員や関係者からの情報を反映しながら、現状に即した新たな計画を作成している。		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の要望やご家族からの依頼に応じて、外出や買い物支援、病院受診の介助など、柔軟な支援を行っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族の希望するかかりつけ医と連携し、受診などの支援を行っている。また、協力医療機関の医師による訪問診療も受けており、入居者が適切な医療を受けられるように支援している。	
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、「看取り介護並びに終末期医療に関する同意書」を提示し説明を行っている。実際の場面では、医師を中心にご家族への説明を行える体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に個人情報の利用や保護に関して説明を行い、カルテや書類の配置等、取り扱いについては適切に行われている。また、現状のトイレを、プライバシーに配慮した造りに改修するように計画している。	
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、職員側のペースを優先せず、入居者の状態や希望に合わせたケアが行えるように声かけしながら支援している。	

## (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に献立を考え、調理の下ごしらえや味付けを手伝ってもらったり、配膳や後片付けを一緒に行うなど、一人ひとりの好みや力を見極めながら食事が楽しめるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日の設定は行っているが、時間や順番、予定日以外の入浴も、入居者の状態や希望に合わせて支援している。		

## (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の力や生活歴等に配慮しながら、洗濯物を干したりたたんだり、茶碗洗いやトレー拭き、掃除やおしぼりたたみ、畑の草取り等々、それぞれに役割を担っていただきながら、日々の生活が充実したものとなるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの敷地が広く、自由に庭へ出て過ごすことができる。また、職員が同行して近所まで散歩に出かけ、桜を眺めたり、飼われている牛を見るなど、それぞれの状態や希望に応じた外出支援を行っている。		

## (4) 安心と安全を支える支援

26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は、鍵をかけることの弊害を十分理解しており、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練を行うとともに、緊急時には、連絡網により自宅待機の夜間当番もすぐかけつける体制ができている。また、ホームの敷地内に職員が1名居住しており、夜間の体制が充実している。地域内の避難場所の確保に加え、消防団や住民の見学も含めて、地域の協力が得られるように働きかけている。		

(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量をチェック表に記入し、職員間で情報を共有している。また、入居者の状態に合わせて、食事の形態等を検討した上で提供している。	○ 栄養バランスが確保されていることを専門的に裏付ける意味で、定期的に献立内容を栄養士に見てもらい、アドバイスを受けることを検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは広々として、大きな窓もあり開放的である。リビングの他にも昼のある部屋でくつろいだり、入居者が活けられた花を飾るなど、季節を感じながら居心地よく過ごせる空間となっている。	
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームで準備された家具もあるが、入居者が使い慣れた物や大切にしている物も持ち込まれている。ご家族との写真も飾られたりしており、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	